

キリスト教の失敗①

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/4/21

これまでに3回あった宣教の拡大期

•戦国時代

- はじめてもたらされた福音
- カトリック修道士らによる宣教
- 急拡大＞禁教

•明治時代

- 禁教が解ける
- プロテスタントによる初めての宣教
- 教育者たちによる宣教拡大＞戦争

•第二次大戦後

- 敗戦後に再開された宣教
- 1%の壁を破れず衰退

はじめてもたらされた福音

• イエズス会の誕生

- 宗教改革に対抗するために誕生したイエズス会
- 「ローマ教皇の兵士」として世界の果てまで赴く

• フランシスコ・ザビエル

- イエズス会の修道士
- インド宣教に行くもうまくいかずマラッカへ
- 人を殺して追われていたヤジローに出会う

• 福音の到着

- ヤジローから日本と日本語を学ぶ
- 1549年、ポルトガル人と共に来日



拡大したキリスト教

•ザビエルの滞在は2年間

- 鹿児島1年＞平戸＞山口＞京都＞山口
- 約5百人受洗。中国入国に失敗し、46歳で死亡

•発展期

- ザビエルと共に来日したトーレスにより宣教拡大
- 1570年までに8万人がキリシタンになる

•拡大期

- 4つの修道会から200人ほどの修道士・司祭が来日し、日本全土に宣教
- 250以上の教会、40～80万人の信者！

なぜ多くの人々が信じたのか①

•不安と混乱の**戦国時代**

- 人々は強い信仰を求めた
- 当初は新しい仏教のように思われていたが…

•明確な**来世の救い**の教え

- 「ドチナリ・キリシタン」(教理書)には、「後生(来世)に扶かる道の掟を弘める」ように記される
- デウス(神)の「ガラサ(恩寵)」とイエズスによって来世で与えられる「ゴラウリア(栄光)」

•現世での救い

- 宣教だけでなく、病気の治療、救貧活動、誇示の救済なども盛んに行われた

なぜ多くの人々が信じたのか②

• マリア信仰

- イエズス会はマリア崇拝に力を入れていた
- マリアが「観音菩薩」のイメージと重なった

• ポルトガル貿易の影響

- 諸大名たちはポルトガルからの鉄砲や弾薬の原料などを求め、布教を許し、あるいは保護した

• キリスト教による支配

- キリシタン大名たちは、キリスト教信仰と厳格なキリスト教倫理によって支配しようとした
- 独立した力を持っていた神社仏閣を抑えるため

禁教・迫害

- 豊臣秀吉による伴天連(バテレン)追放令
 - 多くの日本人が奴隷としてポルトガル船に載せられるのを見た秀吉が出した禁教令(1587年)
 - 「日本二十六聖人殉教」(1595年)
- 徳川幕府による徹底的な鎖国と禁教
 - 徳川秀忠による禁教令(1616年) + 鎖国
 - 島原の乱(1637年): キリシタン農民による一揆
 - 「五人組制度」「檀家制度」「絵踏」
- 禁教は明治6年まで続いた
 - 一部の信者は「潜伏キリシタン」となった



なぜキリスト教は禁じられたのか？

•キリシタン大名たちの力を削ぐため

- キリスト教＋ポルトガル貿易によって力を付けた諸藩は、全国支配を目指す豊臣秀吉や徳川幕府にとっては脅威であった

•ポルトガル・スペインによる侵略を防ぐため

- ローマ教皇はキリスト教布教を条件に、ポルトガルとスペインに世界を支配する許可を与えた
- 南米や東南アジアはその支配下となっていた
- 禁教と鎖国によって国を守ろうとした
 - 一方、長崎の出島でオランダとの交易を行った

最初の失敗に学ぶ事

- 大混乱期に人々は本当の救いを必要とする
 - 戦国時代にもたらされた福音
- 福音が一気に広がる可能性はある
 - 交通手段も情報伝達手段も未発達であった時代に、人口の約3~5%がクリスチャンになった
- 魂の救い以外の目的があってはならない
 - 「イエスは、『これは、だれの肖像と銘か』と言われた。彼らは、『皇帝のものです』と言った。すると、イエスは言われた。『では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』」

マタイ22:20-21

今年の聖句

神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。

テモテへの手紙—2章4～6節